

日本の結婚

動画リンク: <https://youtu.be/QhwK0NPE3v0>

■自己紹介

私は佐藤大輔といます。34歳です。東京に住んでいて、フリーランスのライターをしています。日々、日本の社会や文化について文章を書いています。ライターの仕事を通して、海外の人と話をする機会が多くあります。

その中で、日本における結婚について質問を受けることがよくあります。例えば「日本の結婚式はどのように行われるのか」や、「結婚したあとの生活はどのように変わるのか」といったものです。日本に長く住んでいない人にとっては、日本の結婚に関する文化や習慣がとても不思議に見えるようです。

今回は、日本における結婚について紹介します。結婚が日本でどのように考えられているのか、また歴史や結婚式、そして現代の課題などについてお話しします。

■日本で結婚が持つ意味

日本で結婚は、人生の中でとても大きな出来事と考えられています。結婚すると、法律の上で夫婦として認められます。つまり、ただ一緒に生活するだけではなく、社会からも正式な家族と見なされます。

結婚によって、さまざまな立場が変わります。例えば、結婚した人は「独身」ではなくなり、社会の中で「家庭を持つ人」として見られるようになります。これは職場や地域でも、周囲からの印象に影響することがあります。

また、日本では家族や親から「そろそろ結婚しないのか」と言われることも少なくありません。とくに20代後半から30代前半にかけて、そのような声をかけられる人が多いです。昔の世代では、結婚して家庭を持つことを自然な流れと考える人が多いため、親からの期待やプレッシャーを強く感じる場合があります。

さらに、結婚すると生活のスタイルが変わります。ひとりで暮らしていた人は、パートナーと協力して生活するようになります。家事やお金の使い方も話し合いながら進める必要があります。結婚とは、ただ好きな人と一緒に暮らすことではなく、社会的な責任を持ち、生活を作っていくことなのです。

■結婚の歴史と今との違い

昔の日本では、結婚は恋愛よりも「家と家のつながり」が大切にされていました。お見合いによって、親や親せきが相手を決めることも多かったのです。結婚は本人だけのことでなく、家族同士の関係を強く意識するものでした。

しかし、第二次世界大戦のあとから社会の考え方が変わりました。日本が近代化していく中で、結婚の形も少しずつ変化しました。特に、恋愛をしてから結婚する「恋愛結婚」が増え、今ではほとんどが恋愛結婚になっています。お見合いの数は少なくなりましたが、完全になくなったわけではなく、地域や家の考え方によっては今でも行われています。

さらに、現代では「結婚をしない」という選択をする人も増えています。昔は結婚しないと周囲から強く言われることが多かったですが、今は独身でいることを選ぶ人も珍しくありません。また、結婚せずに一緒に住むカップルもいます。

このように、日本の結婚は時代とともに大きく変わってきました。昔は家のための結婚、戦後は恋愛中心の結婚、そして今は「結婚しない選択」も尊重されるようになっているのです。

■結婚式と披露宴のスタイル

日本の結婚式には、いくつかのスタイルがあります。伝統的なのは「神前式」と呼ばれるもので、神社で行います。新郎と新婦が白い着物や和服を着て、神さまに結婚を誓います。家族も参列し、格式ある、落ち着いた雰囲気の中で式が進みます。

一方、現在の主流となっているのは教会での結婚式です。キリスト教徒ではなくても、ウェディングドレスやタキシードにあこがれてこのスタイルを選ぶ人が多いです。また、特定の宗教にこだわらない「人前式」という形もあります。これは親族や友人の前で誓いの言葉を述べるもので、形式にとらわれない自由なスタイルです。

結婚式のあとに行われるのが「披露宴」です。披露宴は、親族や友人、職場の人を招いて結婚を祝う食事会です。新郎新婦が衣装を着替えて入場したり、友人や上司がスピーチをしたりします。料理やお酒を楽しみながら、新郎新婦の生い立ちを紹介する映像を流すこともあります。

最近では、入籍だけ先にして、式は後で行うこともよくあります。そのため、結婚式を行うタイミングは人によって異なります。また、日本独特の文化として「ご祝儀」があります。これは招待客が新郎新婦に贈るお金のことです。ご祝儀は結婚式や披露宴の費用を助ける意味もあり、一般的には友人や同僚なら3万円が目安です。

新郎新婦との関係や自分の年齢によって金額は変わり、上司や親族の場合はより高くなることもあります。金額は偶数（2万円や4万円）だと「割れる＝別れる」を連想させるため避けられます。そのため、3万円・5万円・7万円といった奇数が基本とされています。

このように、日本の結婚式と披露宴は、伝統と現代が混ざり合い、多くの形を持っています。

■新婚生活のスタート

結婚すると、新しい生活が始まります。ふたりで暮らす家を探すことからスタートすることが多いです。住む場所を決めるときは、仕事場までの通いやすさや家賃の高さが大事なポイントになります。最近は共働きの夫婦が多いため、どちらの職場にも行きやすい場所を選ぶことが多いです。

新しい家では、家事をどう分けるかを話し合うことが大切です。料理や掃除、洗濯などをすべて一人で行うのは大変です。共働きの場合は、どちらかに負担が集中しないように工夫します。例えば、料理は夫が担当し、掃除は妻が担当するなど、それぞれの得意なことを分担することもあります。

お金の管理も重要です。結婚前はそれぞれ自由に使っていたお金も、結婚後は生活費として一緒に考える必要があります。毎月の家賃や光熱費、食費などをどう分けるかを決めることが新婚生活の基本です。最近は共通の口座を作って、そこから生活費を出す夫婦も増えています。

新婚生活では「協力して生活を整えていく」という意識がとても大切です。お互いの生活リズムや考え方が違うこともありますが、話し合いながら少しずつ歩み寄ることで、ふたりの生活が安定していきます。新婚生活は、夫婦と一緒に成長していく大切な時間でもあるのです。

■結婚にかかるお金

日本で結婚をすると、多くのお金がかかります。とくに結婚式や披露宴は大きな出費になります。全国の平均では、結婚式と披露宴を合わせると300万円から400万円ほどかかると言われています。料理や衣装、写真や映像の費用が主なものです。人数が多いほど費用も高くなります。

しかし、日本には「ご祝儀」という文化があります。ご祝儀とは、招待された人が新郎新婦に渡すお金のことです。友人なら3万円、親族なら5万円から10万円程度が一般的です。このご祝儀によって、結婚式の費用の一部をまかなうことができます。ただし、すべてをカバーできるわけではありません。多くの夫婦は貯金を使ったり、親からの援助を受けたりして費用を準備します。

一方で、高額な費用を理由に結婚式を行わない夫婦も増えています。婚姻届の提出だけで済ませたり、写真撮影や小規模のパーティーだけを選んだりするケースもあります。価値観の多様化とともに、結婚式を「必ずするもの」と考えない人も少なくありません。

また、結婚式以外にも新婚旅行や新居の準備にお金が必要です。家具や家電をそろえるだけでも大きな出費になります。そのため、結婚にかかるお金は想像以上に多いと感じる人も少なくありません。

こうした背景から、日本では共働きの夫婦が増えています。ふたりで働くことで生活費を安定させ、結婚後の経済的な不安を減らそうと考える人が多いのです。結婚は愛情だけでなく、現実的なお金の計画も必要だということが分かります。

■現代の結婚の課題

現代の日本では、結婚に関していくつかの課題があります。ひとつは「晩婚化」です。晩婚化とは、結婚する年齢が昔よりも高くなっていることを意味します。実際に、日本の平均初婚年齢は男性で約31歳、女性で約29歳となっており、30歳前後で結婚する人が多くなっています。30年前と比べると、男女ともにおよそ3〜4歳ほど遅くなっています。理由のひとつは、仕事や勉強に時間をかける人が多いことです。また、安定した仕事や収入がないと結婚に踏み出せないと考える人もいます。

もうひとつは「未婚化」です。これは結婚しない人が増えているということです。統計によると、50歳になっても一度も結婚したことがない人の割合は、男性で約25%、女性で約17%にのぼります。昔は「30歳までに結婚するのが当たり前」と考えられていたことを考えると、大きな変化です。日本では「結婚は人生に必要だ」と考える人が少なくなり、「ひとりのままでも幸せ」と思う人が増えています。社会の考え方が変わり、結婚をしない選択が自然なものとして受け入れられるようになっていきます。

さらに、男女の役割についての考え方も変化しています。昔は「夫は外で働き、妻は家庭を守る」と考えられていました。しかし、今は共働きの夫婦が多く、家事や子育てを一緒にすることが当たり前になりつつあります。ただ、現実には家事の分担が平等でない家庭もあります。そのため、夫婦間で不満が生まれることもあります。

こうした課題は簡単に解決できるものではありませんが、日本の結婚を理解する上でとても大切な要素です。結婚は個人の問題であると同時に、社会全体の働き方や価値観とも深く関係しているのです。

■国際結婚のリアル

日本では、国際結婚をする人が年々増えています。国際結婚とは、日本人と外国人が結婚することを指します。観光や留学、仕事をきっかけに出会い、結婚に至るケースが多いです。結婚するカップルのおよそ20組に1組（約5%前後）が国際結婚と言われており、日本社会においても特別なものではなくなりつつあります。

国際結婚には、言葉の違いという大きな課題があります。夫婦のどちらかが相手の言語を学ぶ必要がある場合が多く、最初は誤解やすれ違いが起きることもあります。しかし、お互いに相手の文化や言葉を尊重し合うことで、少しずつ理解を深めることができます。言葉を学ぶ努力が、夫婦の絆を強めるきっかけになることもあります。

また、文化の違いも重要なポイントです。食事の習慣、休日の過ごし方、家族との関わり方などが国によって大きく異なります。例えば、日本では結婚すると親とのつながりを大切にすることが多いですが、外国では夫婦の生活を第一に考える国もあります。その違いをどう調整するかが、国際結婚を成功させるポイントとなります。

さらに、子育てにも文化の違いが表れます。教育の考え方や家庭でのルールは国ごとに異なります。そのため、夫婦はよく話し合い、子どもにとって一番良い方法を探していく必要があります。

このように、国際結婚には大変な部分もありますが、それ以上に学びや発見も多いです。お互いの違いを受け入れ、協力して生活を楽しむことで、国際結婚ならではの豊かさを感じることができます。

■新しい家族の形

日本では、結婚や家族の形が少しずつ変わってきています。昔は「結婚して子どもを持つこと」が一般的だと考えられていました。しかし今は、さまざまな選択肢が受け入れられるようになっていきます。

そのひとつが「パートナーシップ制度」です。これは結婚とは違い、法律的な夫婦ではありませんが、自治体がふたりの関係を認める仕組みです。そのひとつが「パートナーシップ制度」です。これは結婚とは違い、法律的な夫婦ではありませんが、自治体がふたりの関係を認める仕組みです。

また、「事実婚」という形もあります。これは婚姻届を出さずに、夫婦のように一緒に生活することです。法的には結婚していませんが、実際の生活は夫婦と同じです。お互いに「結婚」という形にとらわれず、自由に関係を築きたいと考える人が選ぶことがあります。さらに、「結婚しない」という選択も尊重されるようになっていきます。独身のまま自分の人生を大切にすることも増えていきます。社会全体が「結婚だけが幸せではない」と考えるようになってきたのです。

このように、日本では結婚にとらわれない新しい家族の形が広がっています。多様な価値観が認められることで、一人ひとりが自分らしい生き方を選べるようになってきています。

■幸せな結婚生活のエピソード

結婚には大変なこともあります。幸せを感じる瞬間もたくさんあります。例えば、仕事で疲れて帰ってきたときに、家に明かりがもっていて「おかえり」と声をかけてもらえることがあります。そうした日常の小さな出来事が、安心や喜びにつながります。私の友人の中には、毎日一緒にご飯を食べることを大切にしている夫婦がいます。高級な料理でなくても、ふたりで食べると楽しい時間になります。忙しい日でも一緒に食卓を囲むことで、心が落ち着くと話していました。

また、別の友人は、夫婦で同じ趣味を楽しんでいます。週末に一緒に散歩をしたり、旅行に出かけたりすることで、ふたりの関係がより深くなるそうです。特別なイベントではなく、普段の生活の中に幸せを見つけられるのが結婚の魅力です。

さらに、結婚をしてよかったと思う瞬間は、困難を乗り越えたときにも訪れます。病気や仕事の問題など、一人では大変なことも、夫婦で支え合うことで乗り越えることができます。その経験が、信頼や絆をさらに強くします。

このように、日本の結婚生活には、日常の中に多くの幸せが存在します。大きな出来事だけでなく、毎日の小さな積み重ねが、夫婦の幸せを作っているのです。

■幸せな結婚生活のエピソード

結婚には大変なこともあります。幸せを感じる瞬間もたくさんあります。例えば、仕事で疲れて帰ってきたときに、家に明かりがともっていて「おかえり」と声をかけてもらえることがあります。そうした日常の小さな出来事が、安心や喜びにつながります。私の友人の中には、毎日一緒にご飯を食べることを大切にしている夫婦がいます。高級な料理でなくても、ふたりで食べると楽しい時間になります。忙しい日でも一緒に食卓を囲むことで、心が落ち着くと話していました。

また、別の友人は、夫婦で同じ趣味を楽しんでいます。週末に一緒に散歩をしたり、旅行に出かけたりすることで、ふたりの関係がより深くなるそうです。特別なイベントではなく、普段の生活の中に幸せを見つけられるのが結婚の魅力です。

さらに、結婚をしてよかったと思う瞬間は、困難を乗り越えたときにも訪れます。病気や仕事の問題など、一人では大変なことも、夫婦で支え合うことで乗り越えることができます。その経験が、信頼や絆をさらに強くします。

このように、日本の結婚生活には、日常の中に多くの幸せが存在します。大きな出来事だけでなく、毎日の小さな積み重ねが、夫婦の幸せを作っているのです。



Japanese-listening-SUSHI

